

短期大学における教員養成の意義と  
課題に関する研究

— 本学卒業生を対象としたアンケート調査を中心に (1) —

A study on the significance and problems of teacher training at junior college  
Focusing on questionnaire survey for graduates of  
Yamagata Prefectural Yonezawa Women's Junior College (1)

村瀬 桃子      沼山      博      松田 澄子

Toko Murase, Hiroshi Numayama and Sumiko Matsuda

山形県立米沢女子短期大学

『生活文化研究所報告』

第44号 抜刷

2017年 3 月

# 短期大学における教員養成の意義と 課題に関する研究

— 本学卒業生を対象としたアンケート調査を中心に (1) —

**A study on the significance and problems of teacher training at junior college  
Focusing on questionnaire survey for graduates of  
Yamagata Prefectural Yonezawa Women's Junior College (1)**

村瀬 桃子      沼山   博      松田 澄子

Toko Murase, Hiroshi Numayama and Sumiko Matsuda

## はじめに

われわれの共同研究の目的は、短期大学の教職課程を修了した者の進路調査等を行い、実態を把握し、その存在意義や課題を明らかにすることである。具体的には、米沢女子短期大学（以下、本学と略）の卒業生を対象に、特に教職に就いた者の職業生活の現状を明らかにすることで、課題に迫ることができると考えた。幸い生活文化研究所の共同研究事業（平成25年度、平成27年度）、学長裁量費（平成26年度）に採択され、継続的に調査をすることができ、一応の区切りができた。

本稿は、本学の同窓会「さわらび会」の協力のもとに実施したアンケート調査の詳細な結果の第一報である。この調査は、2014年7月～9月にかけて、「さわらび会」の会報に同封するという方法で、約15,000通を送付した。そのうち、回答があったのは1345通で、何らかの形で小・中・高校での教員を経験した者は395通、回答不備などを除いた365通が分析の対象となる。

本学は現在、国語国文学科、英語英文学科、日本史学科、社会情報学科の4学科で構成されている。しかし、設立当初は家政科（1952〔昭和27〕年～、家政学科1970〔昭和45〕年～1995〔平成7〕年）、次いで国語科（1956〔昭和31〕年～、国語国文学科1970〔昭和45〕年～）が設置され、以後1984（昭和59）年に英語英文学科、日本史学科が設置されるまで、2学科体制であった。

なお、1996（平成6）年に家政学科家政専攻が社会情報学科に、同学科食物専攻が健康栄養学科に改組された。さらに、健康栄養学科は2014（平成26）年に山形県立米沢栄養大学開学の際、発展的に改組、平成27年3月廃止された。

以上を見ても、家政科・家政学科、国語科・国語国文学科の2学科の歴史が長く、卒業生も多く輩出していることが推察できる。

そこで、本稿では、家政科・家政学科、国語科・国語国文学科の2学科における教職経験者の特徴をまず明らかにしたい。

## 1. 家政科・家政学科

先述のように、当該学科は家政科の入学定員80名、被服別科の入学定員40名で1952（昭和27）年に開学した。

教職課程に関していえば、開学当初の家政科で取得できた教員免許状は、中学校2種家庭、小学校仮資格、高等学校仮資格であった。小学校と高等学校の仮資格（小学校の仮資格は1955〔昭和30〕年の卒業生まで、高等学校の仮資格は1956〔昭和31〕年まで）は、教員の安

定供給ができるようになり<sup>1</sup>、1954（昭和29）年の免許法の改正で廃止になった。また、国語科開設の1956（昭和31）年から中学校2種国語免許も取得可能となり<sup>2</sup>、さらに1959（昭和34）年2月に中学校2種保健の教職課程が設置されている。

1976（昭和51）年4月、開学当初から設置されていた家政学科被服別科（教員免許は取得できなかった）が廃止され、家政学科に家政専攻と食物専攻が開設される（入学定員は各40名）、同じ年、中学校2種保健の免許が廃止され、入学定員が変更される（家政専攻40名→50名）<sup>3</sup>。その後、1990（平成2）年に教職課程再認定（中学校2種家庭）、家政学科食物専攻の中学校2種家庭は廃止された。

以上から、主免許である中学校2種家庭免許とともに、開学直後のごく数年は小学校と高等学校の仮資格が、そして1959（昭和34）年～1976（昭和51）年入学生まで中学校2種保健の免許、1956（昭和31）～1961（昭和36）年度卒業生まで国語免許が取得でき、複数免許を取っている者が多く存在する。

なお教員免許以外の資格として、1958（昭和33）年4月入学生から栄養士養成施設として指定され（定員40名）栄養士資格取得が可能に、また1962（昭和37）年には保母試験一部免除科目の指定（8科目中7科目免除）がなされている。以上から、栄養士・保母の有資格者が多く存在しているのであるが、これらの資格の取得者については、他学科の卒業生とともに別稿で扱いたい<sup>4</sup>。

## 1）免許・資格の取得状況

本調査で、家政科・家政学科を卒業し、教職経験のある回答者は204名であった。

先述のように中学校2種の保健は、1976年に廃止されている。本調査では、1970年までの家政科・家政学科卒業生の教員免許取得状況をみると、中学校2種家庭もしくは同家庭と保健を取得する者も多かった（家庭のみ1953～1992年まで136名、1960～1976年までの卒業生で家庭のみ取得57名に対し、1960～1970年までで家庭と保健取得者は22名）。

なお本調査では、国語科が開設された1956（昭和31）年から1962年度卒業生まで中学校2種家庭と国語の取得者がいる（家政科・家政学科1956～1962年度卒業生で国語の免許取得者22名）。

## 2）雇用形態・勤務年数

次に、家政科・家政学科の卒業生で、教職に就いた者の雇用形態・勤務年数の傾向を見てみたい。ここで注目したいのは、1971年度卒業生までと、それ以降の卒業生では、勤務年数・雇用形態の傾向が異なるということである。この点に関しては、1971年に制定された「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」等によって、教員の待遇が改善されたことから人気の職業になっていき、教員採用試験の難度が増したと考えられる。

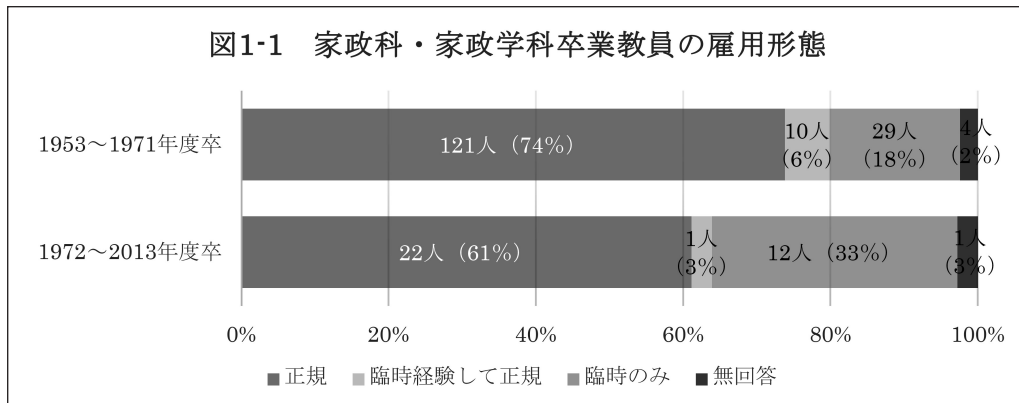
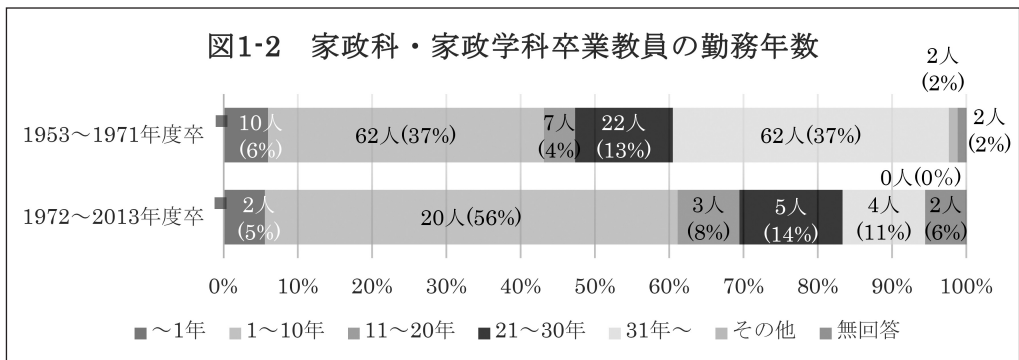


図1-1のように、1971年度以前の卒業生は、全体的に正規採用の割合が高く、1972年度以降に卒業した者は正規採用の割合が減る。なお、臨時採用から正式採用となった者の割合は高くない（1971年まで10名、1972年以降1名）。

次に、図1-2のように、1971年度までの卒業生の勤務年数は、10年未満と、31年以上の2つに大きく分かれており、早期退職型と長期継続型の2つのタイプに分けることができる。



一方、1972年度以降の卒業生になると、勤務年数は、1～10年が最多となり、全体に勤務年数が短くなる。

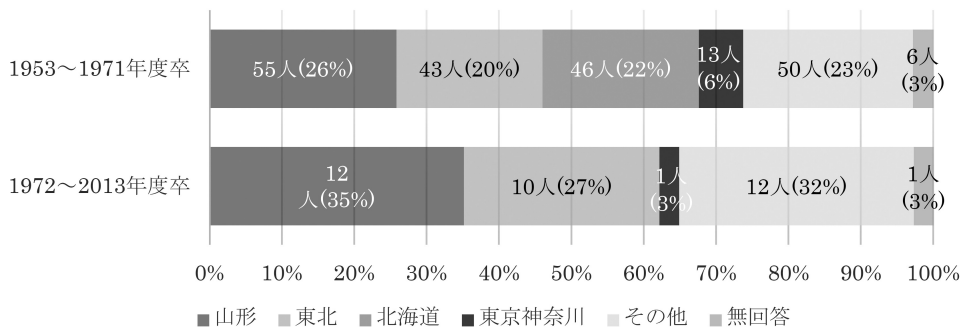
### 3) 勤務地と雇用形態

次に、勤務地ごとの特徴を見ていく（図1-3参照）。

勤務地の特徴は、1971年度までの卒業生は北海道で教職に就いた者が比較的多い（46名、22%）、という点である。しかし、1972年以降、本調査の回答者では勤務地が北海道の者がいなくなる。



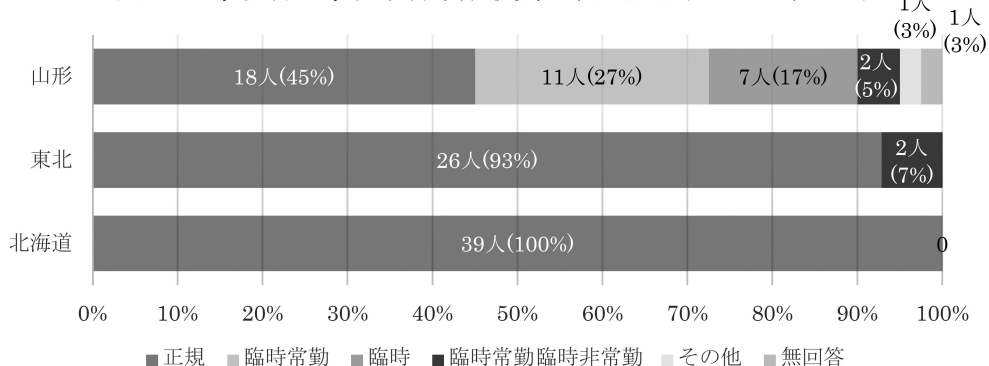
図1-3 家政科・家政学科卒業教員の勤務地（複数回答可）

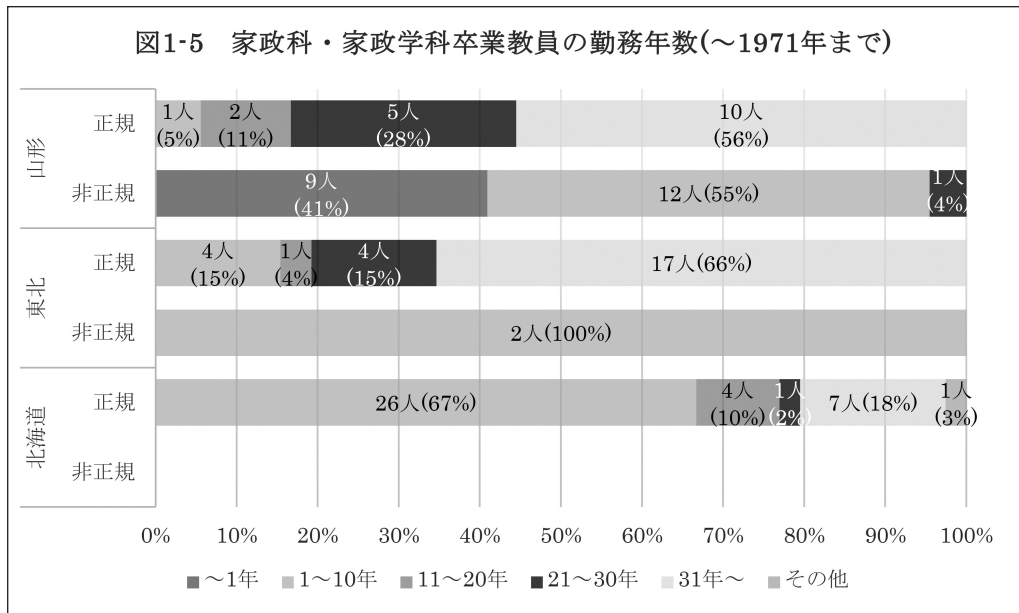


北海道の教員不足は本土より長引き、1960年代までは本学の卒業生も正規で雇用されることから北海道で教職に就く者が比較的多かった<sup>5</sup>。1970年代初頭から、北海道で教職に就く者が激減した理由として、①教員の待遇改善の根拠として高い専門性が求められ<sup>6</sup>、短大の卒業生が教職に就くことが不利になったこと、②北海道でも1970年代になると教員養成が徐々に軌道に乗り始め、他県から採用しなくてもよくなったこと<sup>7</sup>が要因として挙げられる。

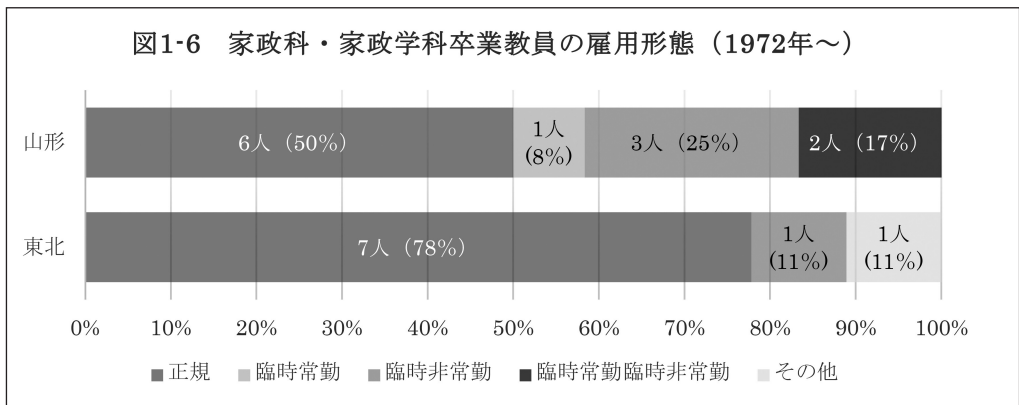
1971年までに卒業し勤務地が山形のみ者の者（40名）にしぼると、正規は18名（45％）で、勤務年数は1～10年…1名、11～20年…2名、21～30年…5名、31年以上…9名（うち正規臨時常勤1名）であった。正規以外の雇用形態では、臨時常勤が11名（27％）で勤務年数の内訳が1～10年…8名、1年未満…3名であった。臨時非常勤が7名（17％）で勤務年数の内訳は1～10年…2名、1年未満…5名であった。臨時常勤臨時非常勤は2名（5％）で勤務年数の内訳は21～30年…1名、1～10年…1名であった。その他1名（3％）の勤務年数は1年未満、無回答1名（3％）の勤務年数は1～10年であった。1971年までに卒業し勤務地が東北地方のみ者の者（28名）の内、正規は26名（93％）で、勤務年数の内訳は31年以上…17名、21～30年…4名、1～10年…4名、11～20年…1名であった。正規以外の雇用形態では、臨時非常勤が2名（7％）で勤務年数は2名とも1～10年であった。勤務先が山形の者は、勤務先が東北の者と比べると、正規雇用の率が大幅に少ない。1971年までに卒業し北海道のみで勤務した者は39名で、39名全てが正規<sup>8</sup>であった。しかし、勤務年数を見てみると、1～10年…26名、11～20年…4名、31年以上…7名<sup>9</sup>と、正規で雇用されていても勤務年数が短い（図1-4,図1-5）。

図1-4 家政科・家政学科卒業教員の雇用形態（～1971年まで）

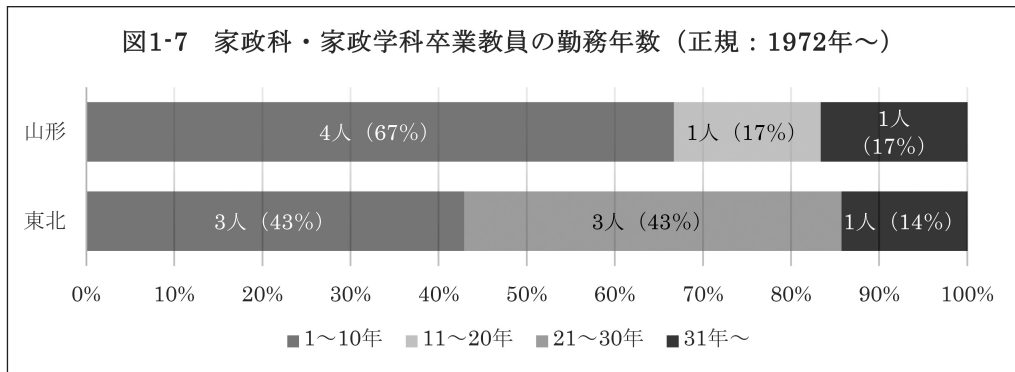




同様に1972年度以降に卒業した者の雇用形態の特徴についてみると、勤務地が山形のみ（12名）では、正規と非正規（内訳は臨時常勤…1名、臨時非常勤…3名、臨時常勤臨時非常勤…2名）が半々であるのに対し、勤務地が東北のみ（9名）では、山形より正規の率が高い（正規7名、臨時非常勤1名、その他1名）（図1-6）。



さらに勤務年数をみると、勤務地が山形県のみで正規雇用の者の最多が1～10年と比較的短い（1～10年…4名、11～20年…1名、31年…1名）。一方、勤務地が東北のみの者の勤務年数は1～10年が最多ではあるが、21～30年（3名）、31年以上（1名）も一定数おり、勤務地が山形のみと比べ長い傾向にある（図1-7）。



## 2. 国語科・国語国文学科

先述のように、国語科の開設は、1956（昭和31）年4月（入学定員40名）で、開設当初より中学校2種国語と家庭を取ることができた。しかし1971（昭和46）年、中学校2種家庭免許と保母資格関連科目の単位が取得できなくなる<sup>10</sup>。1976（昭和51）年には、入学定員が変更され（国語国文学科40名→50名）、1984（昭和59）年には、入学定員が倍増（50名→100名）した（なお平成2年3月に教職課程再認定〔中2普国語〕、平成12年3月に教職課程再認定〔中2種国語〕）。

教員免許以外では、先述のように国語免許とともに保母資格を取得した者もいる<sup>11</sup>。また、1971（昭和46）年より、司書講習相当科目にかかる単位習得の認定が開始され、図書館司書の資格を取る者が増え、本調査でも1973年以降になると中学校2種国語と図書館司書資格取得が多数となる<sup>12</sup>。教員免許以外の資格の取得者については、家政科・家政学科の章で述べたとおり、別稿で分析したい。

### 1) 免許・資格の取得状況

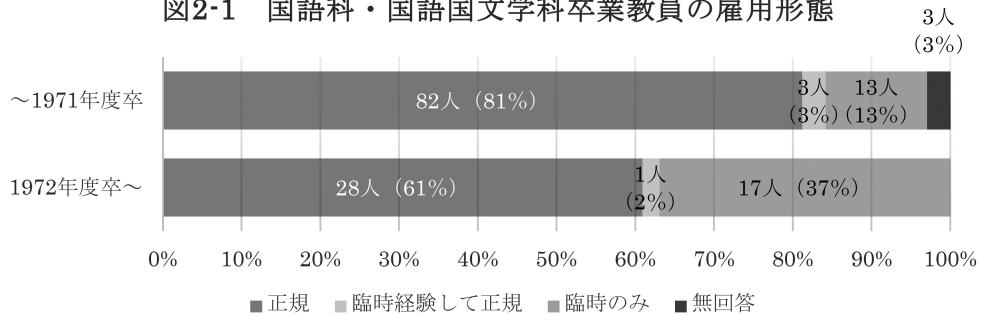
本調査で、国語科・国語国文学科を卒業し、教職経験のある回答者は147名であった。

国語科設置当初に取得できた免許状は、中学校2種（国語・家庭）であったことから、本調査でも中学校2種国語と家庭を取得した回答者がいた（51名、内特別免許1名、1958～1970年卒業）。先述のように、1971（昭和46）年から副免が取得できなくなることから、本調査でも1971年卒業生以降、家庭免許の取得者がいなくなる。

### 2) 雇用形態・勤務年数

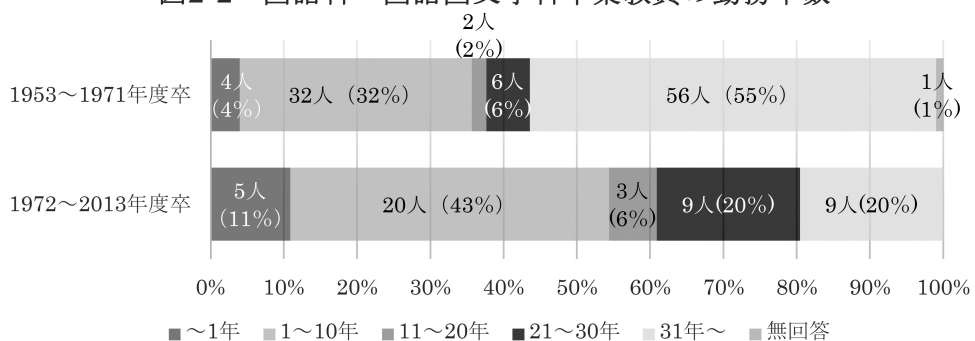
国語科・国語国文学科の卒業生も、家政科・家政学科と同様、1971年までは全体的に正規採用の割合が高く、臨時から正規採用の割合も高くない（図2-1）。

図2-1 国語科・国語国文学科卒業教員の雇用形態



勤務年数を見てみると、家政科・家政学科と同様に1971年までの卒業生（101名）の勤務年数は、10年未満と、31年以上の2つに分かれている（早期退職型と長期継続型）。1972年以降の卒業生は現役世代ということもあるが、勤務年数が短くなる（図2-2）。

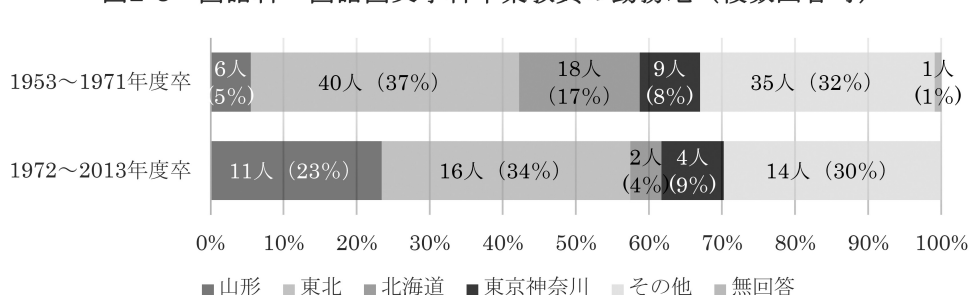
図2-2 国語科・国語国文学科卒業教員の勤務年数



### 3) 勤務地と雇用形態

次に、国語科・国語国文学科卒業生の勤務地による特徴を見ていこう（図2-3）。

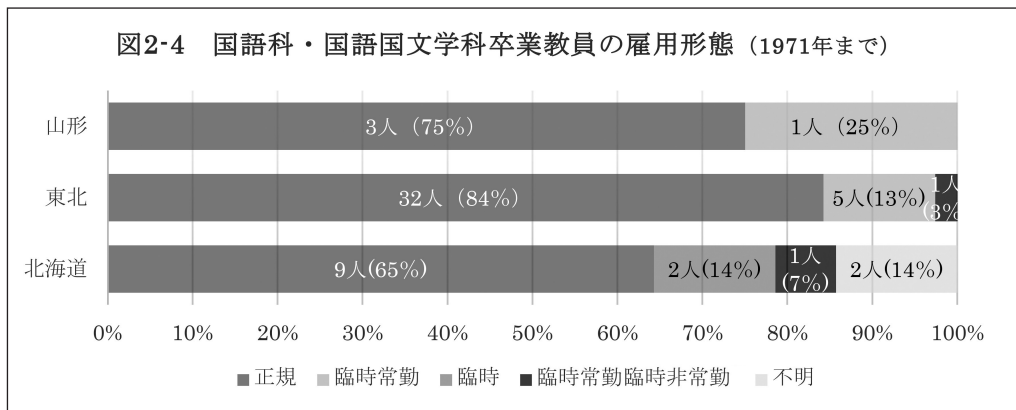
図2-3 国語科・国語国文学科卒業教員の勤務地（複数回答可）

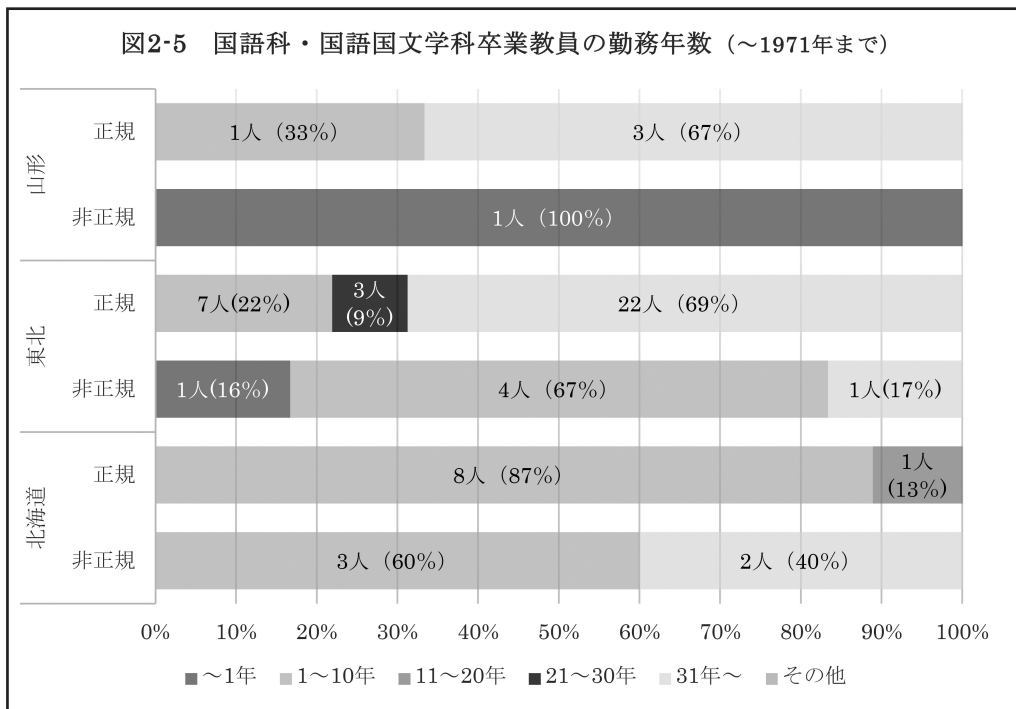


1971年以前の国語科・国語国文学科の卒業生の勤務地は、山形が少なく、東北、その他、北海道の割合が高い。また、家政科・家政学科卒業生と同様、1972年以降の卒業生から、北海道で教職に就く者が激減する（18名→2名）。

次に、勤務地と勤務年数の特徴を見ていく（図2-4,図2-5）。

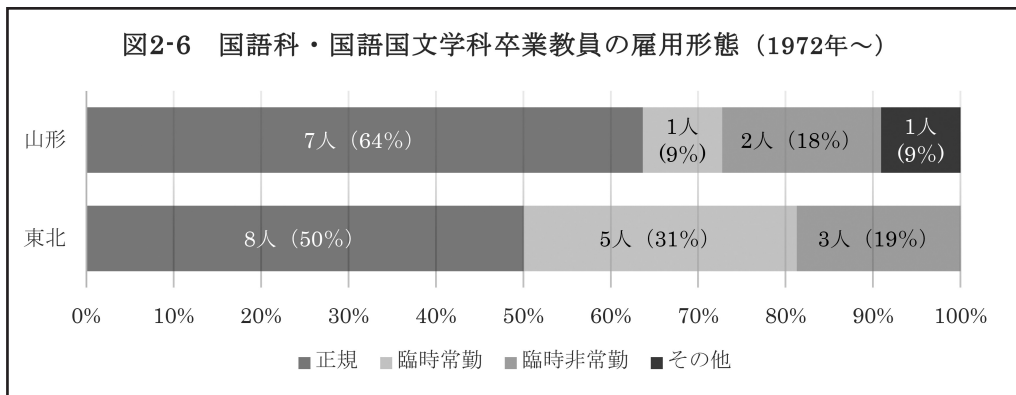
1971年度までの卒業生で勤務地が山形のみのは4名であった。正規3名の勤務年数は31年以上…2名、1～10年…1名で、臨時常勤1名の勤務年数は1年未満であった。勤務地が東北のみのは38名であった。正規32名の勤務年数は1～10年…7名（うち正規臨時非常勤1名）、21～30年…3名、31年～…22名であった。正規以外の雇用形態では、臨時常勤5名の勤務年数が1年未満…1名、1～10年…3名、31年～…1名であった。臨時常勤臨時非常勤1名の勤務年数は1～10年であった。勤務地が北海道のみのは14名であった。正規9名の勤務年数は1～10年…8名（うち正規臨時非常勤1名）、11～20年…1名であった。正規以外の雇用形態では、臨時非常勤2名の勤務年数が1～10年、臨時常勤臨時非常勤1名の勤務年数が1～10年、不明2名の勤務年数はともに31年以上であった。勤務地が山形のみのは東北のみのはと比べ、北海道のみで勤務した者は正式採用でも勤務年数が10年以内の者が多い。



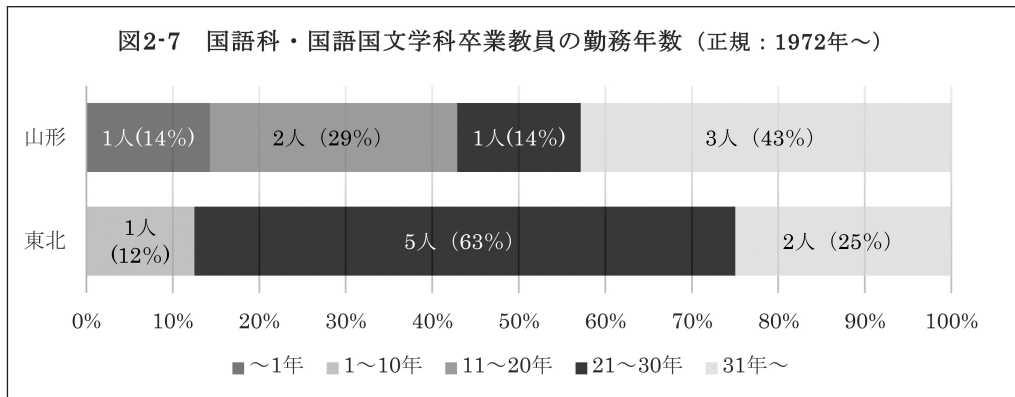


1972年度以降の卒業生（46名）の勤務地と勤務年数の特徴をみる（図2-6、図2-7）。

山形のみで勤務した者では、正規が7名で勤務年数は1年未満…1名、11～20年…2名、21～30年…1名、31年～…3名であった。正規以外の雇用形態の者は3名で、その内訳は臨時常勤…1名、臨時非常勤…2名（勤務年数は1～10年…1名、～1年…1名）、その他1名（勤務年数1～10年）であった。東北のみで勤務した者は、正規8名（勤務年数は1～10年…1名、21～30年…5名、31年～…2名）、正規以外の雇用形態8名（内訳は臨時常勤5名〔1～10年…3名、～1年…2名〕、臨時非常勤3名〔1～10年…3名〕）であった（図2-6、図2-7）。



家政科・家政学科と同様、1971年以前の卒業生と比べると、山形・東北どちらに勤務する者も非正規の割合が増えている。現役世代ということもあるが、正規雇用の者も勤務年数も短くなっている。



### 小括

以上、本学の中でも歴史が長く多数の卒業生がいる家政科・家政学科と国語科・国語国文学科に限定して、免許・資格の取得状況と雇用形態・勤務年数を通覧してきた。

特徴の一つとして、1971年度までに卒業した者とそれ以後の者で、雇用形態・勤務年数の違いがみられた。

まず、1971年度までに卒業した者の中で、家政科・家政学科と国語科・国語国文学科で共通する点を挙げてみる。第一に、北海道に勤務する者が比較的多かった点である。第二に、勤務年数が10年未満と31年以上にわかれる点である。第三に、全体的に正規採用の者が多かった点である。第四に、北海道のみで勤務した者の勤務年数がほとんど正規採用でありながら、10年以下の者が多い点である。

家政科・家政学科を1971年度までに卒業した者の特徴として、山形のみで勤務した者は、正規の比率が東北地方のみで勤務する者より低く（常勤講師・非常勤講師が多く）10年以内で退職する者が多かった点である。

1971年度までの国語科・国語国文学科卒業生は、家政科・家政学科卒業生と比べ、山形県に勤務した者の数が少ないという特徴もある。

家政科・家政学科卒業生で山形県のみで勤務した者の特徴として、1971年度以前の卒業生もそれ以後も、同時代の東北のみに勤務した者と比べると、正規雇用の割合が低い点が特徴として挙げられる。一方、国語科・国語国文学科では、1971年度以前の卒業生の数が少ないため、単純に比較はできないが、1972年以降の卒業で山形に勤務した者の正規雇用率は、東北に勤務した者に比べ高い。

今回は紙幅の都合もあり、家政科・家政学科および国語科・国語国文学科卒業の教員のみの勤務年数や勤務地、雇用形態等基礎データが中心であったが、さらに他学科の卒業生を含め、これ以外の項目や、教員免許以外の資格取得者の結果についても数回に分け掲載する予定である。これら結果については、他日に期したい。

（以上は、沼山、松田と協議の下、村瀬がまとめたものである。最終的な文責は村瀬にある。）



## 注

<sup>1</sup> 「新しい教育制度もようやく安定期を迎えるに伴い、教員に対する高い専門学力と教職教養が要請されるようになり、昭和二十八年には教育職員免許法の一部改正が行なわれ、新たに課程認定制度が設けられた。(略) 引き続いて、二十九年にも免許法の一部改正が行なわれ、免許法に定められる修得単位数を増加させると同時に、教員需給関係の好転に伴い、従来の仮免許状を廃止した」、「教員免許制度等の整備」(「一 教員養成制度の整備」) 文部科学省HP< [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1317829.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317829.htm)>2016.12.16、より。

<sup>2</sup> 本学の『教員免許下附台帳』の各年度に記載された免許取得者を調査したところ、家政科の卒業生で中学校2種国語免許も取得している者が1961(昭和36)年卒業生まで存在している。

<sup>3</sup> 山形県公立大学法人 山形県立米沢女子短期大学

HP<<http://www.yone.ac.jp/outline/history.html>>2016.12.21、より。

<sup>4</sup> 本調査では、家政科・家政学科の卒業生で、保母資格を取得した者23名(内22名が家庭免許取得、1957～1990年卒業)。同様に、栄養士の資格取得者は33名(内家庭免許取得者10名、家庭と保健取得者14名、保健取得者1名、1960～1995年卒業生)、図書館司書3名(すべて家庭免許取得、1965～1966年卒業)。

<sup>5</sup> この点に関しては、布施賢治「米沢女子短期大学における校風議論とその形状——一九五〇年代から六〇年代の『同窓会誌』にみる北海道へのいわゆる「渡道女史」の教員就職と同窓会北海道支部設立過程を事例として——」『山形県立米沢女子短期大学紀要』第52号、2016年12月、pp.29-55に詳しい。

<sup>6</sup> 中央教育審議会第22回答申では「教員の養成確保とその地位の向上のための施策」として「より高い専門性と管理指導上の責任に対応するじゅうぶんな給与が受けられるよう」(『今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本施策について』昭和46年6月11日)とある。

<sup>7</sup> 昭和29年に北海道大学・北海道教育大学(小学校教員養成課程・中学校教員養成課程〔技術は昭和37年〕・幼稚園教員養成課程)・北海学園大学の教職課程が設置され、また室蘭工業大学、小樽商科大学、帯広畜産大学も一部の学部が同年に認定されている。以後も、札幌医科大学(昭和32年)、藤女子大学(昭和36年)、酪農学園大学(昭和36～40年)、北星学園大学(昭和37～44年)、札幌大学(昭和43年)というように、教職課程を置く大学が昭和30～40年代にかけて増えていく(「北海道における設置認定課程大学の状況 自昭和29年至昭和58年」北海道立教育研究所編『北海道教育史 資料編第一巻』平成9年3月、pp.493-495)。

<sup>8</sup> 内1名は後に臨時常勤、勤務年数は21～30年であった。

<sup>9</sup> これらの他に、1～10年11～20年と記述があるもの1名。

<sup>10</sup> 「国語国文学科では、三一年四月国語科発足の当初から教職(中二普国語)の課程が置かれ毎年ほとんど全員が履修する盛況であったが、その他に副専コースとして、家政科の学生とともに、教職(中二普家庭)の課程を履修することも出来、さらに三八年度からは、家政科の学生なみに保母の資格のための単位をほとんど全部(八科目中七科目試験免除)とることが出来るようになっていった(これは四六年度まで続いた。)当時は時代の要請を反映してこれら『副専コース』の履修を希望する学生が少なくなかったのである。しかしながら、学科の性格とかけ離れた副専コースを履修させることは、カリキュラム編成上無理を冒さねばならぬ難点があり、かねがね改善が要望されていた。これに加えて、実地視察の結果にもとづく文部省の指導もあった。(昭和四二年一〇月三日付通知)、こうした状況から、これらの副専コースに代わるもので、より一層国語国文学科にふさわしいものということで考究の



結果、司書課程設置の意向が決まったのである」〔第二章 学科のあゆみ 第三節 国語国文学科〕『山形県立米沢女子短期大学三十年誌』1982（昭和57）年10月、p.64。

<sup>11</sup> 中学校2種国語と保母の資格を取っている者は5名で、1名は家庭免許も取得（1964～1968年卒業）。

<sup>12</sup> 1973～2012年卒業生の内、図書館司書資格取得者28名（内27名が国語免許取得者）、図書館司書教諭22名（全て図書館司書資格取得、21名が国語免許取得）。なお、1958～1966年卒業生の中にも、図書館司書取得者8名（国語免許取得者5名・国語と家庭免許取得者3名）、図書館司書教諭取得者7名（国語免許取得者4名・国語と家庭免許取得者3名）、図書館司書と司書教諭取得者4名（すべて国語免許取得者、家庭免許取得者1名）がいる。

---

## 参考文献

布施賢治「戦後地域社会史としての米沢女子短期大学の設立過程—婦人会、文化団体、社会教育、花嫁学校、教員養成、同窓会を手がかりとして—」『米沢史学』第30号、米沢史学会、2014年。



- 
- 4-1 雇用形態について記号でお答えください。  
ア 正規採用           イ 常勤・期限付の臨時教員  
ウ 非常勤・期限付の臨時教員           エ その他（具体的にお答えください）
- 4-2 どの都道府県で勤務していますか。記号でお答えください。  
ア 山形県           イ 山形県以外の東北の県           ウ 北海道  
エ 東京都・神奈川県           オ その他（具体的にお答えください）
- 4-3 教職の経験年数を記号でお答えください。  
ア 1年未満           イ 1～10年           ウ 11～20年           エ 21～30年  
オ 31年以上
- 4-4 なぜ教職に就いたのですか。記号でお答えください。（複数回答可）  
ア 親（兄弟・親戚）が教員だった           イ 親や教師等から勧められた  
ウ 子どもが好き           エ 男女差別がない           オ 身分が安定している  
カ 給料がよい           キ 短大・大学で学んだ知識や技術を活かせる  
ク その他（具体的にお答えください）
- 4-5 短大卒もしくは女性ということでの何か差別のようなものはありましたか。記号でお答えください。  
ア あった           イ なかった
- 4-6 「ア あった」と答えた方へ  
それはどのようなものでしたか。記号でお答えください。（複数回答可）  
ア 昇進が遅い           イ 担任を持たせてもらえない  
ウ 重要なポスト（教務主任や進路主任等）に就かせてもらえない  
エ 補助的な仕事（お茶くみ、掃除等）をさせられる  
オ 妊娠出産や子育てによる不利益  
カ その他（具体的にお答えください）
- 4-7 在職中、子育てをどう乗り越えましたか。記号でお答えください。  
ア 保育所を利用           イ 個人的に預けた  
ウ 姑、実母の助け           エ その他（具体的にお答えください）
5. 管理職に就いた方へ（就かなかった方は6へ）
- 5-1 退職時の職名を記号でお答えください。  
ア 校長           イ 教頭           ウ 教務主任           エ 主幹           オ その他
- 5-2 なぜ管理職になったのですか。（自由記述）
6. 定年前に退職された方へ（定年まで勤められた方は7へ）  
なぜ定年前に退職されたのですか。記号でお答えください。  
ア 自身の健康上の理由           イ 家事・育児・介護等  
ウ 地域活動や趣味等に専念するため           エ その他（具体的にお答えください）
7. これまでの人生のなかで、米沢女子短期大学を卒業してよかったと思ったことをあげてください。（自由記述）

ご協力ありがとうございました。

資料 2 免許の種類と学科、卒業年度

(単位：人)

免許の種類	中 2 普 家庭	中 2 普 家庭	小仮 資格	高仮 資格	中 2 普 保健	中 2 普 国語	中 2 普 家庭	中 2 普 保健	中 2 普 家庭	中 2 普 国語
学科	家政	家政	家政	家政	家政	家政	家政	家政	国語	国語
卒業年度	(被服)	(家政)			(被服)	(被服)	(食物)	(食物)	国文	国文
1953(昭和 28)年		78	48	63						
1954(昭和 29)年			72							
1955(昭和 30)年		34 *1	105 *2	68 *3						
1956(昭和 31)年		109 *4		8 *5		47				
1957(昭和 32)年		85				26			18	47
1958(昭和 33)年		52				12			17	22
1959(昭和 34)年		71				46			14 *6	24
1960(昭和 35)年	38					5	37	39 *7	16	33
1961(昭和 36)年	61					15	41	45	39	57
1962(昭和 37)年	62				46		31	37	19	45
1963(昭和 38)年	55						38	51	24	59
1964(昭和 39)年	46						21	28	20	55
1965(昭和 40)年	27						20	31	13	45
1966(昭和 41)年	41						29	38	14	48
1967(昭和 42)年	37						16	25	26	51
1968(昭和 43)年	34						15	30	12	43
1969(昭和 44)年	34						24	15	12	43
1970(昭和 45)年	27						19		5	46
1971(昭和 46)年	34						29		4	50
1972(昭和 47)年	40						16			30
1973(昭和 48)年	31						3			27
1974(昭和 49)年	38						32			41
1975(昭和 50)年	40						17			29
1976(昭和 51)年	37						34			32
1977(昭和 52)年	39						35			70
1978(昭和 53)年	48						20			51
1979(昭和 54)年	35						20			49
1980(昭和 55)年	45						14			49
1981(昭和 56)年	46						12			49
1982(昭和 57)年	43						14			57
1983(昭和 58)年	32						3			35
1984(昭和 59)年	32									31

1985(昭和60)年	36						8			58
1986(昭和61)年	29						4			66
1987(昭和62)年	24						5			51
1988(昭和63)年	22						7			40
1989(平成1)年		21					1			41
1990(平成2)年		22					3			45
1991(平成3)年		21								40
1992(平成4)年		17								38
1993(平成5)年		17								40
1994(平成6)年		15								23
1995(平成7)年										31
1996(平成8)年										28
1997(平成9)年										33
1998(平成10)年										35
1999(平成11)年										27
2000(平成12)年										30
2001(平成13)年										19
2002(平成14)年										20
2003(平成15)年										21
2004(平成16)年										22
2005(平成17)年										25
2006(平成18)年										30
2007(平成19)年										16
2008(平成20)年										27
2009(平成21)年										22
2010(平成22)年										16
2011(平成23)年										40
2012(平成24)年										30
2013(平成25)年										21

- \*1 中2 普家庭:次年度交付者も含む。  
 \*2 小免資格 58 名…福島県教委とあり。  
 \*3 高仮資格 後日 65 名追加  
 \*4 中2 普家庭…次年度交付者 3 名含む。  
 \*5 高仮資格…次年度交付者 3 名含む。  
 \*6 中2 家庭…うち次年度交付 4 名(国語科)  
 \*7 中2 保健…うち次年度交付 2 名(家政 B)  
 (以上は、本学の『教員免許下附台帳』による。)